

第1回黒部川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成19年9月25日（火）13:30～15:10

場 所：ホテルアクア黒部（2F ロイヤルシンフォニー）

- 議事次第：
1. 開 会
 2. 挨拶
 3. 出席者の紹介
 4. 設立趣旨、規約及び運営方針について
 5. 座長選出
 6. 議 事
 - ①流域および河川の概要について
 - ②河川整備基本方針について
 - ③現況および課題について
 - ④河川整備計画について
 7. 質 疑
 8. 閉 会

■黒部川流域懇談会の設立趣意書（案）について

- ・原案のとおり承認された。

[主な意見]

(委員A)

- ・流域に2市3町というのは存在しているのか。

(事務局)

- ・黒部川の流域で見ると、最上流部に富山市、立山町が一部かかっている。

■黒部川流域懇談会規約（案）について

- ・原案のとおり承認された。

[主な意見]

(委員A)

- ・代理は可能かどうか。

(事務局)

- ・行政委員は、代理の出席は可能であると考える。

■黒部川流域懇談会運営方針（案）について

- ・原案のとおり承認された。

[主な意見]

(委員 C)

- ・流域懇談会の事前案内について、ホームページ以外での方法はないか。

(事務局)

- ・市や町の広報誌等、いろいろな媒体を活用して広報していきたい。

■座長選出

- ・規約第 6 条に基づき、座長に 福岡 捷二 中央大学研究開発機構教授を選出した。

■議 事

①流域および河川の概要について

[主な意見]

(委員 H)

- ・流下能力不足の点検は、何年ぐらいに行われるのか。

(事務局)

- ・毎年定期的に縦横断測量を実施していることから、毎年流下能力不足の点検を行っている。

(委員 D)

- ・水質については BOD の評価だけではなく、河川の豊かなふれあいの確保や、豊かな生態系の確保といった新しい指標でも評価していく必要がある。

(事務局)

- ・確認し、次回に回答する。

②河川整備基本方針について

[主な意見]

(委員 G)

- ・黒部川の霞堤は、氾濫被害の軽減として、実際にどれだけ機能しているか、その可能性はどうか疑問に思う。昭和 27 年洪水や昭和 44 年洪水時に機能した霞堤はいくつあるのか。また、霞堤毎に、機能するものかどうかを整理しておく必要がある。

(委員 I)

- ・黒部川の総合土砂管理について、上流部の土砂を下流部にできるだけ自然の形で積極的に流すことになっているが、もう少し明確な数値目標を示す必要がある。

(委員 J)

- ・霞堤の内部に、建造物や土砂の集積場等があるが、河川管理者が許可を出しているのか。

(事務局)

- ・霞堤と霞堤の間がすべて河川区域ではなく、3分の1くらいが河川区域として法規制できるが、それ以外は民地もありその利用には制限を受けていないことになっている。

③現況および課題について

④河川整備計画について

[主な意見]

(委員 F)

- ・正常流量は、サクラマスが移動できることを基準にして、愛本地点で $4.5\text{m}^3/\text{s}$ となっているが、サクラマスが移動できても、この流量で棲みつくことが可能なものか。

(事務局)

- ・確認し、次回に回答する。

(委員 H)

- ・下新川海岸の侵食の度合いを経年的に見るために、深淺測量の結果を過去のものから整理する必要がある。

(事務局)

- ・配布した黒部川河川事務所事業概要のパンフレットに、海岸汀線後退状況のグラフを示している。直轄工事がはじまる昭和 35 年までに海岸線の後退は著しいが、それ以降は場所にもよるが海岸線は維持している。